

ユニット名	島根大学陸上競技部 S.C.A.R.E(スケア) Shimadai Sports Club for Action, Responsibility & Environment
代表者	陸上競技部 主将 松下玲旺
所属人数	56名
達成に資するSDGs目標	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 15 陸の豊かさを守ろう 17 パートナリーシップで目標を達成しよう
活動概要	本ユニットでは、島根大学陸上競技部が母体となって運営する「島大スポーツクラブ」の活動を通じて、SDGsの理念に沿った持続可能な地域づくりおよび人材育成に貢献することを目的とする。「島大スポーツクラブ」は、大学の知的・人的資源を活用しながら、地域社会と連携し、スポーツの力で人とまちを元気にすることを使命として活動している。以下、クラブの理念を前提に、3本柱を軸に活動を展開する。 ① 地域スポーツ支援と健康増進の推進(SDG 3, 4, 11) 本クラブの強みである「陸上競技の専門性」を活かし、幼児・児童を対象とした陸上教室(月に3回程度)や陸上大会(8, 11月予定)を開催し、子どもたちの運動機会創出や運動能力の向上を支援する。 ② 環境・資源保全への貢献(SDG 12, 15) 日常的に利用する競技場や周辺地域において、月に1回程度の清掃活動や草刈りを実施する。さらに、競技用シューズ・ウェアなどの中古品リユース(寄贈・交換会, 11月予定)を行い、スポーツ活動における廃棄物削減と資源循環を実現する取り組みを行う。 ③ 情報発信と大学・地域のSDGs推進(SDG 17) 活動内容や成果を、SNS・学内広報・地域紙等を通じて定期的に発信することで、SDGsに取り組む姿勢を学内外に共有する。学生主体のスポーツ団体として、地域・教育機関・行政等との連携強化を図り、本ユニットの取り組みが、他の学生団体や地域クラブの「モデルケース」となるような展開・波及を目指す。
主な連携先 (予定を含む)	島根県スポーツ振興課(2025年度「地域で取り組む生涯スポーツ推進事業：年間型」に採択済, 添付資料) 一般財団法人 島根陸上競技協会(普及・育成部との連携)
成果物の公表予定、 社会への波及効果	本ユニットの活動では、SDGsの理念を取り入れたプログラムを実践し、島根大学陸上競技部が「学生主体のスポーツ団体による地域貢献」の先進的な「モデルケース」となることを目指す。各活動軸とSDGs目標に即し、以下のように成果物の可視化と波及効果の創出を図る。 ①地域スポーツ支援と健康増進の推進(SDG 3, 4, 11) 地域の幼児・児童を対象とした陸上教室、陸上大会および関連イベントの実施内容と成果は、陸上競技部の公式SNSや地域メディア(テレビや新聞取材)等を利用して広く発信する。これにより、地域における運動習慣の定着と健康意識の向上に寄与するとともに、大学生が専門知識を活かしながら教育的実践を行う場を創出する。加えて、学内外で開催される活動報告会に積極的に参加・発表することで、他のサークル・部活動団体への好事例の波及を図り、本学におけるスポーツを基軸とした地域連携・教育機能の強化に貢献する。 ② 環境・資源保全への貢献(SDG 12, 15) 競技場やその周辺での清掃活動、廃棄予定だったシューズやウェアのリユース企画など、環境・資源に配慮した活動の実施状況は、写真・データを交えて公式SNSや大学広報を通じて定期的に公表する。これらの取り組みを通じて、学生自身が「つかう責任」を再認識し、循環型スポーツ活動の担い手となることを目指す。また、環境配慮型の取り組みを部活動単位で推進する先進事例として学内外に共有し、他の団体や競技種目への横展開を促す契機とする。 ③ 情報発信と大学・地域のSDGs推進(SDG 17) 年間の活動成果をまとめた報告書を作成し、大学ウェブサイトや地域機関、教育関係者等に配信するほか、大学主催イベントやポスターセッション等での発表も行う予定である。公式SNS等を活用したリアルタイムな情報発信も継続的に実施することで、学生主体のスポーツ団体による主体的なSDGs実践の「モデルケース」としての発信力を高める。こうした情報共有を通じて、学内の他団体との連携強化や、地域社会との協働的関係の構築にもつなげていく。